

情報で、命を守る。

災害関連死ゼロ を目指して。

一人ひとりの命を守る情報をつなぎ
必要な人に必要な支援を届けるmiteの仕組み



救急・支援の新しい形



命のカルテ
命を守る情報を
一元管理



自治体のシステム
をサポート



企業・団体と連携
必要な人に
必要な支援を



防災を学ぶ
一人ひとりが助
け合える人材に



災害関連死ゼロ
地域をつくる

miteは情報の力で命を繋ぐ未来をつくります。



情報で命を守り、 誰一人取り残さない社会へ。 災害関連死ゼロを目指して。

災害で直接の被害を免れても、避難生活の中で命を落とす「災害関連死」が課題となっています。2016年の熊本地震では、死者278人のうち228人が災害関連死でした。主な要因の一つに、発災直後の「情報共有の遅れ」や「情報の混乱」があります。誰が、どこで、どのような支援を必要としているのかを正確に把握できないという、情報管理の構造的な課題が浮き彫りになりました。これまで、自治体単独での情報収集には限界があり、必要な情報の集約が十分に進まない状況がありました。こうした課題を解決するため、**命を守る情報を平時から集約・共有する仕組みを構築**。災害時には、その情報を迅速に活用することで、適切な支援を必要な人へ届けることを目指しています。

1 情報をつなぐ



情報で命を守る

必要な情報を整理して共有できるようにし、必要な人へ迅速に届けます。

2 命を守る



災害関連死ゼロを目指して

一時的な被害だけでなく、その後の命も守ります。

3 誰一人取り残さない



日常から災害時まで。

すべての人がいつでも安心して暮らせる社会をつくれます。



活動を始めたきっかけ

代表理事の近藤麻視は、指定難病SLEの発症と救急搬送時の受け入れ困難を経験し、緊急時における「命を守る情報」の重要性を痛感しました。災害時には、情報共有の不足により必要な支援が届かず、命が失われてしまう現実があります。「**情報がつながれば命を守ることができる**」という思いから、自治体のシステムと内閣府のシステムとの連携を補完する仕組みとして「**mite (ミテ) システム**」を開発しました。平時からの情報整備と、災害時における迅速な支援の実現を通じて、支え合える社会づくりを目指しています。



案内役

ミテワンくん

防災の大切さや「情報で命を守ること」を、みんなにわかりやすく届けるシュナウザーの防災ナビゲーター。

自分の命を守る力（自助）と、地域で支え合う力（共助）。そのどちらも大切にしながら、住民一人ひとりの防災スキルを育み、人と人をつないでいきます。

情報を通じて「助け合いの輪」を広げ、誰一人取り残さない社会の実現へ。

備えることが未来を守る一歩だワン！

大切な人を守るために情報が大切なんだワン！

助け合いの輪をつくるワン！

人と人をつなげるワン！



過去の震災から見えてきた課題

もし、あなたのまちで災害が起きたら—

その時、私たちの備えは十分でしょうか——

命を守る情報を伝える手段がなかったとしたら...

日常生活でも大変なことがある中、大災害が起きると、さらに多くの困りごとが発生します。災害時の混乱の中で、必要な情報をどう伝えますか？離れた家族の安否を、どう確認しますか？



熊本地震後の街並み（益城町）

- ・持病やアレルギーが伝わらず、適切な対応が受けられない。
 - ・家族がどこにいるのかわからない。
 - ・情報が混乱し、正しい避難行動が分からなくなる。
- その情報の欠如が、支援の遅れを生み、
助けられるはずの命を危険にさらしてしまいます。



東日本大震災直後、誰がどこにいるのか把握できず、家族を探して歩き回る人や、手書きのメッセージを残して探す姿があふれました。



東日本大震災時に宮城県名取市の避難所に貼られた数多くのメッセージ。（時事通信より引用）



情報が断絶することがもたらす混乱と不安

- ・安否確認に時間がかかる
- ・自治体が避難所運営だけで手一杯になる
- ・リアルタイムの情報を把握することが困難になる
- ・最新の情報は共有されない
- ・情報格差が生まれる

避難所の現状

必要な物資が必要な人に届かない

被災者に届く物資は、健康者対応の物資から集まるのも現状です。



要支援者に対応できる環境が整っていない



必要な人に必要な薬が届きにくい



アレルギーの人にアレルギーに対応した食事が届きにくい



避難所には、命に関わるさまざまな物資が必要です。

病気に
対応した食事は？

酸素ポンプを
使用している人の
電源は？



咀嚼・嚥下機能が
低下した人が
食べられる食事は？



たん吸引器
唾液吸引器など
命に関わる支援
物資は？



入れ歯を入れずに逃げた人や、
メガネを忘れてしまった人の対応も必要

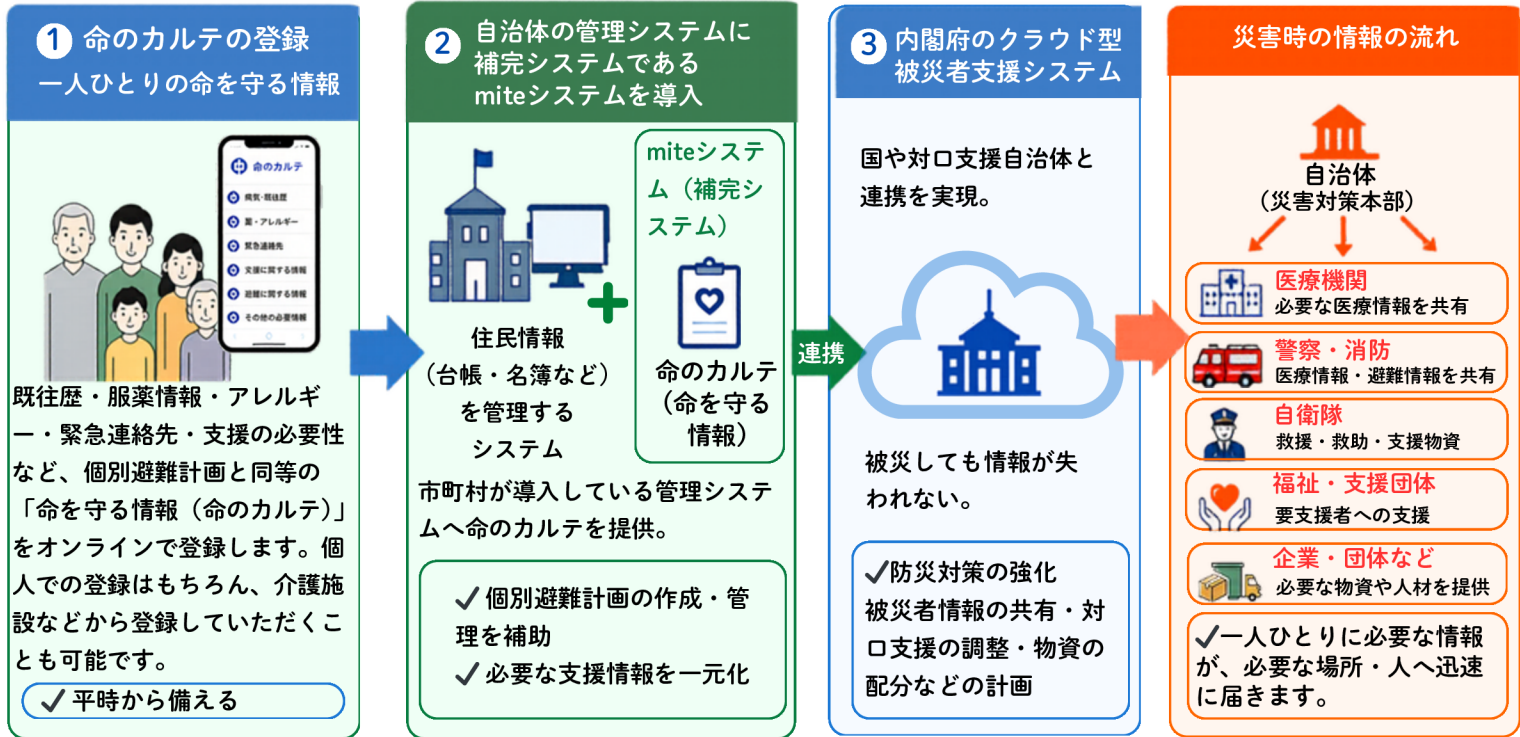


過去の教訓を未来の備えに。誰一人取り残さない支援体制の構築が急務です。

miteシステムとは

mite（ミテ）システムは、「命を守る情報」をつなぐ（リエゾン）仕組みです。災害時にも混乱を防ぎ、**災害関連死ゼロ**を目指すための自治体向けの補完システムです。「命のカルテ」には、既往歴・服薬情報・アレルギーなど、個別避難計画と同等の情報を平時から集め、自治体に情報提供。災害時には、情報が一元化される内閣府クラウド型被災者支援システムを最大限活用できるように支援し、自治体への負担を軽減。情報をデジタル化（DX化）できるので情報共有が円滑になり、対口支援がスムーズに。自治体の負担が減ることにより災害関連死ゼロに近づきます。また、これらの情報を自治体から関係機関へ迅速に共有できることで、適切な医療対応や支援物資の提供を円滑にします。

情報の流れ（全体イメージ）



個別避難計画とは？

高齢者や障がいのある方など、災害時に自力での避難が困難な方（避難行動要支援者）を対象に、誰が・どこへ・どのように避難するかを事前に定めておく計画です。2021年の災害対策基本法の改正により、市町村が作成を促進する努力義務とされています。

紙での保管にはリスクがあります。

個別避難計画は、紙で保管されているケースが多く、自治体では鍵付きロッカーで管理されたり、自治会の個人が保管している場合もあります。しかし、紙による保管にはさまざまなリスクが伴います

1. 災害時に取り出せない



火災や建物の倒壊などにより、保管している資料が焼失・破損し、必要な情報を取り出せなくなる可能性があります。

2. 担当者に依存する

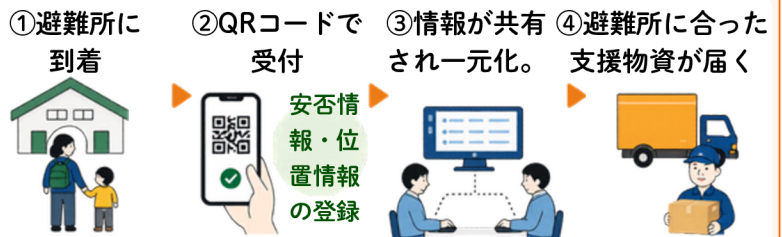


担当者自身が被災した場合、情報の所在の所在が分からなくなったり、取り出せなくなる恐れがあります。

⚠ 災害対策基本法第49条の13には守秘義務が定められており、故意に情報を漏えいした場合には、損害賠償責任を問われる可能性があります。

災害時の流れ

情報をつなぎ、必要な支援を確実に届けます。



💡 情報が届くことで... 酸素ボンベ・インスリンなど、必要な医療支援も迅速に届く！

指定避難所以外（在宅・車中泊・テントなど）でも位置情報（座標）の登録が可能です。必要な物資や情報を、場所を問わず届けることができます。避難所を移動した場合でも追跡して安否確認できます。

持病がある場合



持病・服薬情報が共有され、医療対応がスムーズに。

アレルギーがある場合



アレルギー情報が共有され、安全な食事が提供されます。

家族の場合



離れた家族の安否情報が確認でき、安心につながります。



平時から情報を登録し備えることで、災害時に迅速・的確な支援が可能になります。



命のカルテとは

命のカルテを登録しよう。

いざという時のために、今できる備えを。

「命のカルテ」とは、あなたや大切な人の命を守るための情報です。その情報をあらかじめまとめておくことで、災害時にもスムーズに支援へとつなげる仕組みが「mite」です。自治体にmiteが導入されていることで、平時から情報を共有し、災害に備えることができます。そして災害時には、救助や支援物資の提供などを、迅速かつ適切に行うことが可能になります。あらかじめ登録された情報があることで、必要な支援が、必要な人に、確実に届きます。今すぐ「命のカルテ」を登録し、災害への備えをはじめましょう。

スマホなどで
簡単登録！
いつでも
確認・更新OK



命のカルテに登録する情報

基本情報



- ・氏名・生年月日・性別
- ・住所・連絡先
- ・顔写真など

医療・健康情報



- ・かかりつけ医・病院・施設
- ・持病・既往歴など

アレルギー



- ・アレルギーの有無
- ・症状・注意点など

医療品・医療機器



- ・服用している薬
- ・ストーマ・インスリン

緊急連絡先



- ・家族・親戚の連絡先・メールアドレス

その他メモ



- ・支援してほしいこと
- ・特記事項など

miteシステムの導入自治体でご利用の方は「大規模災害」にも対応可能。補助制度あり

mite (ミテ) システム

命のカルテ



自治体に情報が届く

クラウドで大切に保存しているから必要な物資や支援をマッチングでき、支援を迅速に届けることができます。

命のカルテがあると…

- ✓ 持病やアレルギーなどの情報をすぐに伝えられる
- ✓ 避難所でも安心して過ごすことができる
- ✓ 必要な物資や支援がスムーズどこに避難しているかなどが登録した家族へメールで届く

命を守る行動につながる

●個別避難計画策定のデジタル化の仕組み

現在、個別避難計画は紙で運用されるケースが多く、一方で、補助制度を活用することで居宅介護支援事業所（高齢者分野）や指定特定相談支援事業所（障害者分野）などの福祉専門職（ケアマネジャー・相談支援専門員等）の協力を得ながら、個別避難計画の作成・管理を進める仕組みづくりが可能です。

●活用の可能性がある既存の補助制度

※内閣府政策統括官（防災担当）資料より
・「防災・安全交付金」や「農山漁村地域整備交付金」は、個別避難計画の作成に活用できる可能性がある
・「デジタル田園都市国家構想交付金」は、個別避難計画に係るシステムの導入に活用できる可能性がある

自治体未導入でも、自分の情報を持ち歩けるsitte版命のカルテに登録できる！



あなたのスマートフォンに情報を登録できる



いつでも確認・変更ができる



いざという時にすぐにあなたの情報を提示できる



※情報はスマートフォン（ローカル）登録なので、情報流出の心配が少なく安心です！

自治体がmiteシステムを連携したら…



自治体がmiteシステムを活用



システム連携



miteに連携され大規模災害にも対応！

今すぐ登録！！（無料）

スマホで簡単登録！



登録するといざという時助かる

災害対応を「人依存」から 情報管理で「仕組み化」へ

限られた人員でも、
確実に命を守るための新しい運用モデル。

災害時、自治体職員は
限界を超える状況に直面します。



災害時に自治体職員が直面する課題

業務量は
平常時の10倍以上



電話や問い合わせ対応
が殺到し、本来の災害
対応が進まなくなる。

職員の多くが
避難所対応に集中



災害時には職員の多く
が避難所対応に追われ
る状況になります。

情報収集・共有に
時間がかかる



状況が刻々と変化す
る中、情報収集や共
有が困難になる。

情報管理が困難



安否確認や避難者の移
動状況など必要な情報
の把握が難しくなる。

必要な支援の
判断が遅れる



誰に、何が必要かを把
握できず支援のタイミ
ングを逃してしまう。

問題の本質は、「情報」の一元化と共有です。

被災地の自治体職員も、同じ被災者です。自らも被災し、不安や混乱の中でありながら、災害対応を続けなければならない現実があります。だからこそ、自治体職員の負担を減らし、早期の復旧・復興活動につなげる仕組みが必要です。



mite (ミテ) システムは、
命を守る情報を一元化し、
迅速に共有できる仕組みです。

miteは、“命を守る情報”である「命のカルテ（個別避難計画と同等の情報）」を活用し、支援が必要な方一人ひとりの情報を一元化します。また、必要な支援内容ごとに、対象者リストを抽出することも可能です。

有事に必要な情報が、平時から随時
アップデートされて活用できる

命のカルテの情報は、日常の中でいつでも更
新・管理が可能。災害時にも、最新の情報をも
とに、迅速な支援や対応につなげることが
できます。

避難所に来ない人の位置情報も集められ
て、情報収集がスムーズ

避難所に来ない人の位置情報も把握でき、
情報収集がスムーズに在宅避難や車中泊、
テント避難など、指定避難所以外で避難して
いる方の位置情報も登録可能。必要な支援
や情報を、必要な場所へ迅速につなげ
ることができます。

mite × 内閣府クラウド型被災者支援システムで
対口支援先との連携がスムーズに

内閣府クラウド型被災者支援システムと連携することで、全国
の自治体・関係機関と迅速につながり、災害時の対口支援（広
域支援）のDXを実現します。



miteを導入することで本番環境に近い形で平時から運用・訓練が可能になります。

自治体にとっての導入メリット



業務負担の大幅軽減

情報整理や確認作業の負
担を大幅に削減し、職員
が本来必要な災害対応業
務へ集中できるようにな
ります。



情報収集の負担を軽減

現在は、避難所で保健師などが
一人ひとりの服薬情報・ADL情
報などを確認して回る必要が
あります。導入することで現場の
負担軽減につながります。



地域ニーズに
応じた防災備蓄

地域に必要な物資や支援内
容を事前に把握できるた
め、平時から必要な備蓄や
支援体制の準備を進めるこ
とができます。



効率的な備蓄
支援体制の実現

必要な人に必要な支援を届け
やすくなることで、災害時の
物資ロスや廃棄物の削減にも
つながり、無駄なコストや税
金の削減にも貢献します。

企業の「備え」が、地域の「支援力」になる

助け愛メンバー登録で、災害時の「支援」と「活用」をつなぐ仕組み
 災害時、企業が持つ「在庫」「人材」「技術・アイデア」は、地域を支える大きな力になります。しかし現状では、必要な場所へ支援が届かず、食品ロスや支援の遅れが発生するケースもあります。mite（ミテ）システムでは、企業・自治体・支援機関をつなぎ、必要な支援を必要な場所へ届ける仕組みを目指しています。
 “もったいない”を“ありがとう”へ。地域で支え合う新しい防災の形をつくります。
 どんな業種でも、小さなお店や会社でも、「できること」の情報が集まれば、助かる命や支援があります。



情報がつながると
 あなたの会社が
 「助け合いの拠点」
 になる！

助け愛メンバー登録（無料）とは？

災害時に、企業の資源を「必要な支援」としてつなぐ仕組みです。
 事前にどのような支援ができるか登録（無料）してください。

登録できるもの（例）



食品・在庫・商品
 （未利用食品・在庫品・日用品など）



人材（スタッフの派遣）
 （ボランティア・専門人材など）



施設（避難拠点の提供）
 （事業所・駐車場・会議室など）

できる時にできることを。支援が可能な状況の際には、ご協力をお願いします。



助け愛 企業メンバー

事前にあなたの企業ができることを登録しておくことで、災害時に必要とされる支援を迅速につなぐことができます。

被災地域で活用・支援に

- ・必要な物資を、必要な地域へ届ける
- ・避難所運営や帰宅困難者支援に活用
- ・地域とのつながりが企業価値向上につながる
- ・SDGs・社会貢献活動にも



助け愛メンバーに登録するメリット

食品ロス・在庫の有効活用



廃棄ロスを有効活用し、命を守る支援につなげることができます。

廃棄コストの削減と、支援価値の創出に。

人材・施設を社会貢献に活用



帰宅困難者支援や、一時避難場所として事業所・駐車場・会議室などを活用できます。地域の安心・安全への貢献につながります。

企業の強みを活かし、地域を支える！

登録だけで機能する仕組み



事前に登録いただいた情報をもとに、必要な支援を自治体や社協などがマッチングします。

登録するだけで、支援の輪に参加！

安心してご参加いただけます



無理な負担は発生しません。支援提供の可否は、災害時の状況や企業様の判断にお任せしています。



被害が大きい場合や、自社が被災した場合など、状況に応じて支援を行わない判断も可能です。



強制的な支援は一切ありません。登録は、つながるための備えです。負担や義務は発生しません。

まずは、情報を登録しておきませんか？

企業の皆さまの「備え」が、いざという時に地域を支える大きな力になります。一緒に、誰一人取り残さない未来をつくりましょう。

助け愛企業メンバー登録はこちらから

Webで簡単登録！



見て、知って、助かる。

みんなで学ぶ防災

「ミシカル」

防災を学ぶことは、自分と大切な人を守る第一歩。

まずは無料登録をして
「助け愛メンバー」になりませんか？

登録するだけで
防災を学べるワン！

ミシカルとは



ミシカルとは、誰でも無料で
防災を学べる仕組みです。
メールアドレスを登録するだけで、
月に2回、消防士や防災士が監修した防災
に役立つ情報が届きます。



特別な知識や準備は必要ありません。
「ミテ→シッテ→タスカル」のステップ
で、楽しく防災を学べます。

登録すると「助け愛メンバー」に！

助け愛メンバーは、
災害時に自分を守り、
大切な人や地域の人を助けられる人を増
やすための取り組みです。

まずは、防災を知ることから。
あなたの小さな備えが、
いざという時の大きな支えになります。



「ミテ→シッテ→タスカル」3つのステップで学ぼう！

ミテ（見る）

まずは防災を身近に感じる



まずはできることから！
見ながら楽しく
学んでみよう。

シッテ（知る）

正しい知識を学び、備える



必要な備えをチェッ
クリストで学んだり、
命を守る行動を
知ろう。

タスカル（助かる）

知識を行動に変える



いざという時に落ち着
いて行動できるよう、
実践してみよう！

登録すると、こんな情報が届きます！（月2回お届け）



いざという時に役立つ
防災知識



実際の災害から
学ぶリアルな話



今日からできる
簡単な備え

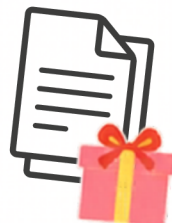


家族を守るための
ヒント

登録特典

今なら、
命を守る情報をまとめられる

「命のカルテシート」
をプレゼント！



今すぐ
無料登録！

助け愛メンバー登録はこちらから

Webで簡単登録！

- ・登録無料・メールアドレスだけでOK
- ・月2回、防災に役立つ情報が届きます
- ・強制的な活動や負担は一切ありません
- ・個人情報は適切に管理します



一緒に、誰一人取り残さない
未来をつくりましょう！

